

俳句集



令和五年度 第十九回

亀山市民俳句会

(小・中学生の部 入選作品)

主催 亀山市・亀山俳句会



選
者

前	坂	石
田	口	井
照	緑	い
子	志	さ
先生	先生	お
		先生

亀山東小学校 五年生

秀 逸

まざりかけ絵の具のようなもみじたち
あついときけずるこおりがかがやいた
雨がふるあじさいゆれる静かな日
夏祭りシヤカシヤカふってポテト食べる
お月見はアパートだけど見えるかな
夏祭りたくさん買って百五円
津祭りでしゃご馬いたよねりあるき
夏の夜じゅえきの戦争カブトムシ
夏まつりごはん食べたらかえるやつ
さきほこる梅雨のおとずれタチアオイ
晴れの日のひらひらとまうもみじの葉

亀山南小学校 五年生

風に乗り木から飛び立つ紅葉かな
雨上がり光彩アーチ町囲う
秋来たる夕ぐれ早く遊べない
夏終わりすこし色づくもみじかな
いろはちるもみじのゆかはあかきいろ
夏の空入道雲がやってくる

秀 逸 ホラガイを耳にあてれば海の声

秀 逸 たきのおとかぜにとんでく水しぶき

水の音ホタルが光る夜の空

夏の夜家族で行ったお化け屋敷

水光り裸足で駆けるとある朝

井田川小学校
六年生

音にのり打ち上げ花火舞い上がる
ひまわりは元気をくれる太陽だ
コスモスの花がゆれるよ帰り道
雨の音が何も無い日をつつみこむ

夏休みともに会うのは回線上
カメラ持ちひまわりと空とりたいたい
夏祭り何を食べるかなやむ夜
部屋のすみ風鈴鳴る中本を読む
サイダーをばくはつさせる夏の夜
汗流すそれほど見たい山の上
梅雨の時期しづくキラキラ笑ってる

ランドセルおろすと暑さ増してくる

神辺小学校 一年生

秀 逸 かあさんのつくるカレーはおかわりだ

神辺小学校 二年生

すいかわりこっそりたべておこられた
みかんがりぷちつときるとジューシーだ

神辺小学校 三年生

特 選 なつやすみあたらしい本見つけたよ
うち水をいえのまえまくわたしです

神辺小学校 四年生

秀 逸 ひまわりは元気出る花なんでかな
天の川キラキラ光るたからもの

神辺小学校 五年生

夏の外わたしの体こげていく
雲のないきれいな満月秋の気配
夏の星三角形がひかっている
夏休みホラー映画は友達と
4年ぶりはなびたいかいましたよ
夏休みさわりたくないひつきようぐ
打ち水で涼しくなるよ家の庭
夏祭りみんなとはぐれまいごだよ

関小学校 六年生

まっくらな空に一輪大花火
もみじはねたびだちの日は秋なんだ

見つめられはずかしがってる満月よ
夏休みすることなくてひまだった
ひまわりが日光あびて笑ってる
ふうりんがかぜにふかれてゆれている
はなびがねパンパンパンと笑ってる
きのこいりおじやがとてもおいしいな
きもだめしどんよりとした家でした
まつりではいちばんたべたいかき氷

中部中学校 三年生

特	選	はか参り思い出語る祖父と父
秀	逸	腰かけて家族と共にお月見を
秀	逸	朝がきても夜がきてもセミの声

秀

逸

窓見れば虫が張りつく夏の夜
ゆつくりと静かな音で川がなる
半ズボン外から聴こえる子どもかな
窓際でペラペラめくる読書の秋
夏風邪や寝れば聴こえる蚊の羽音
せみの声部屋にこもって聞かぬふり
夕立に見向きもせずにもまた二度寝
夏休み受験に向けて加速時期
森の奥朱色に染まる落ち葉たち
最高だ部活終わりのかき氷
夏祭り人多すぎて何も買えず
だんだんと大きくなってくセミの声

風鈴や音色鳴り止む雨の音
川の声夏の暑さがなくなるね
かきごおり赤・黄・紫食べくらべ
夏の夜そよかぜあびて街歩く
夏の浜強い日差しと光る海
夏の夜空いちめに星が降る
夏の夜まどごしで見る夜の星
山間に姿現す夕日かな
夕立と忘れた合羽と濡れるシャツ
もみぢ散るいつもの道が鮮やかだ
仲違い外も心もじめじめと
青い空雲いっぱい暑い夏

関中学校 三年生

あさがおがきれいな顔を見せてくる
ダンスすきオムライスすきうたがすき
風鈴もちりりと鳴らす午後の風
ゆつくりと紅葉へ変わるもみじの葉

秀 逸

終わるなと線香花火いのるだけ
体育祭人数不利の綱引きや
夕空の赤を吸いしや曼珠沙華
懐かしやともに探したかぶとむし
満月が眠れぬ夜を照らしてる
真夏日の部活はいつもバテまくり
かき氷ハワイの色に顔緩む

浴衣きて関宿歩く日曜日
夏祭り囃子奏でる関の山車